

# 海外派遣留学プログラム報告書

## (報告期間：2023/02/25～2023/05/05)

### 1. 勉学の状況

前期の授業は全て英語で開講されている授業を3つとっています。韓国人教授が話す英語は、最初は聞き取りにくかったのですが、3回目の授業くらいからは聞き取れるようになりました。またもちろん韓国人学生もとっている授業がほとんどのため、教授は韓国語で細く説明することがあります。その場合は韓国語のリスニング練習のつもりで聞いています。韓国語の勉強は日常生活内やラジオから取り入れるようにしています。ルームメイトが日本人なのですが、たまに韓国語で会話することで会話力を磨きつつ、日常生活の中でリスニング力と、教授へのメールや部署への問い合わせの際に英語ではなく韓国語を使用することで、筆記力も培おうとしています。

反対に心配になるのが英語力ですが、授業でのみ英語を使うような状態で、日本人・韓国人の友人以外とのコミュニケーションでのみ英語を使うので、脳がたまにパニックを起こし、英語で話したくても韓国語しか出てこない場合もあります。特にこの状態は日本語と韓国語の文章構造が非常に似ているからだと考えられます。どちらも「主語→目的語・修飾語など→述語」の文法のため、日本語での会話と同じ思考回路で文章が作れます。一方英語は「主語→述語→目的語・修飾語など」の順番のため、別の思考回路が必要になり、韓国に来る前よりスムーズに英語が出てこなくなっていました。そこで、大学内の書店で、韓国の出版社の TOEIC 学習本を購入し、日本帰国前に韓国で TOEIC を取れるように勉強中です。TOEIC は国際資格のため、どの国で取得してもほとんどの企業や団体が英語力の証明として認めてくれるというのを知り、10・11月ごろの受験を目標に勉強しています。

加えて、この2ヶ月で自分の新たな興味も生まれました。当初の留学の目的は「韓国メディアと日本メディアの各国の報道の違いから日韓の相互印象へ与える影響とそこから関係改善の糸口を見つける」というものでした。しかしチュンアン大学での授業や並行して千葉大学国際教養学部のクロスメジャーの授業を受けているうちに「メディアが与える日韓両国が相互に持つ国と個人への印象の違い」特に「日本人は反韓感情と韓流文化流行の混在、歴史的に韓国との関係性に対して興味を持っていないが、韓国人は日本人や日本への興味、自国の対日政治への興味関心が強い」という点に興味があります。まだ留学の動機となった興味ほど深掘りできていないのですが、今後の生活でもアンテナを張り、情報収集やテーマの練り直しをしてみようと思います。

### 2. 生活の状況

最初の2ヶ月は外国人登録証や韓国の国民健康保険料免除の手続きなど、生活に慣れることや勉学以外の大変な部分が多く、また経験者やネットからほとんど情報が得られない内容ばかりで、とても精神的疲労が大きいです。留学するということは、自分の勉学面の他に劇的な精神面の成長が苦痛でした。特に異文化だから大変というよりも、自分の住みやすい環境を自分が作っていくために、まずは頼れる存在を作ることや助け合える関係の人を見つけるという部分が一番大変でした。今は、ルームメイトと生活面の不一致を話し合って譲歩し合ったり、同じ授業をとっている友人に声をかけたりすることで、過ごしやすい環境が形成されています。ホームシックまではいかずとも、日本食が食べなくなったり、情緒が不安定になりやすいという自覚もあるので、定期的に友人と出かけたり、一人で寮周辺を散歩してリフレッシュしています。外出する気分じゃなくても一歩でも部屋の外に出ることで、おしゃれなカフェに行ってお茶を飲むだけでも外出するようにしています。またメンタルが弱っちゃう時には食欲がなくなることも多かったのですが、何も食べなくても何もしなくても、ただぼうっとするためだけに外に出かけるのも案外楽しいです。周りの目を気にせず、ジャージのままでも寮の裏山に散歩に出掛けて、ベンチで自然に触れるだけでリフレッシュできるので、特に試験期間中はよくやっていました。急激な成長が苦痛だったと書きましたが、今はこの1ヶ月で自分がどれだけ成長できるのか、楽しみです。

# 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2023/05/06～2023/10/28)

## 1. 勉学の状況

前期の英語のみの履修状況から、後期になって韓国語で開講されている講義もいくつか受講しています。この報告書を書く時期が遅くなってしまったのは、直前まで中間試験があったからですが、一番大変だったのは「韓国史」という授業です。韓国語で実施され、正規学生にとっては全学部生の履修必須科目となっているのですが、単語が韓国語だと英語より理解するのに時間がかかったり、自分が知っている朝鮮史の流れだけだと不十分なので、そこを補填しながら勉強していくのが大変に感じます。ですが教授が日本で研究していたことのある方なので、日本語にも明るく日本語の参考書籍を紹介してくれるので、必死に食らいついでいる状態です。授業期間は残り2ヶ月ですが、最後まで頑張りたいと思います。

## 2. 生活の状況

夏の2ヶ月を一時帰国したため、精神的にも環境的にもリフレッシュできていい滞在になりました。当初は1年間ずっと韓国にいる予定でしたが、夏季休暇中の時間の使い方が難しく、せつかくなれば日本に帰国して周りが韓国語に溢れていない環境に戻ることで、モチベーションをもう一度上げ直すつもりで帰国しました。十分な気分転換になったので、再び韓国語や現地での勉学に気合を入れ直して、最後まで留学生生活を満喫して帰ろうと思います。



↑大学の正門前の広場



↑秋夕（チュソク）のときに韓国人の友人宅で食べた祭事食



↑日本の十五夜の日撮った創立100年記念館とお月様の写真

# 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2023/10/29 ~2024/01/24 )

## 1. 勉学の状況

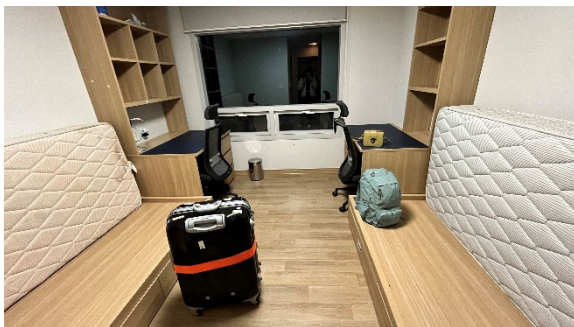
11 月頭に、前期にも行った global fair がありました。私自身は参加申請していなかったのですが、日本ブースの人手が足りないと言われ、手伝いに行きました。

今回もいろんな国の学生と知り合うことができ、コミュニティが広がりました。中でも、同じ交換留学生だったある方と出会ったのですが、彼女は日本語を母国の大学で勉強し、韓国語を今韓国に留学しながら勉強していました。なので彼女とはお互いに日本語と英語で言語交換をしながら、韓国語でわからないところも補足し合っていました。彼女のおかげで英語の聴解力が維持できたり、言語を教えることの難しさを知りました。

11 月中旬に韓国語の能力試験を受験したり、12 月末の期末試験に向けて勉強を進める中で、授業に必要な日本語の資料を集めに国立中央図書館に行ったりしました。このような 1 年間の滞在から、前期よりも韓国語の理解力が向上したことで、授業や実生活から得られる知識が増えたと実感できました。



↑ 11 月の Global Fair の様子



↑ 寮の部屋



↑ 留学生の修了式に出席しました

## 2. 生活の状況

韓国では日本よりもクリスマスへの気合が入っていて、大晦日や年越しは日本ほど大々的には行いません。そのため、早いところでは 11 月末から街中でクリスマスツリーを見ることができます。ですがそんな街中の浮ついた気分とは反対に期末試験に向けて勉強を始めていきました。

ソウル市内では 11 月ごろから雪が降り始め、一気に気温が下がります。ロングペディン(ペディング)と呼ばれるコートがないと凍えてしまいそうなほどで、おしゃれしたくてもコートで隠れちゃうのですが、それでもクリスマスのイベントがたくさん開催されるので、勉強との折り合いをつけながらいろんなところにお出かけしました。

期末試験も無事終わり、成績開示もされ、クリスマス、新年を迎えたら、もう帰国の時期が近づいてきました。すごくすごく寂しい気持ちもありましたが、荷造りの他にも銀行口座の解約や携帯の解約など、やることが山積みだったので、続々と帰国していく友人たちを見送りながら、自分も帰国準備を進めました。

帰国した今振り返ってみても、本当にあっという間でもっと長くいたいと思うほど充実した留学生活でした。

